

2025 年 5 月 11 日 (日)

日本キリスト教団 ^{きゅうほうきょうかい} 久宝教会

第 68 巻第 4 号 (通算 3441 号)

教会設立 1959 年 6 月 14 日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺 6 丁目 7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

^{ちい}小さく^{ひと}されている人を
^{たいせつ}大切にする^{きょうかい}教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

イエスは言われた。「私が復活であり、命である。」

私に信頼して歩む人は、たとえ死んでいても生きる」(ヨハネによる福音書 11:25)



かぞく ひれいはい
家族の日礼拝

ふっかつせつだい しゅじつれいはい
(復活節第4主日礼拝)



《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂けます》

ぜんそう もくとう
前奏 (黙祷)

AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば
招きの詞

しへん
詩編

136編 1-4節

さんび か
賛美歌

21-461番

「みめぐみゆたけき」(©教団讃美歌委員会)

せいしよ
聖書

コリントの信徒への手紙 I

12章 3-13節

いの
お祈り

さんび か
賛美歌

21-390番

「主は教会の基となり」(©教団出版局)

メッセージ「神の恵みは思いのままに」

牛田 匡 牧師

さんび か
賛美歌

21-413番

「キリストの腕は」(©JASRAC)

しゅいの
主の祈り

21-62番

「天にいます わたしたちの父」(©讃美歌改訂委員会)

ささげもの
献げ物 (*)

はけん
派遣

21-91番

「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅくふく
祝福

牛田 匡 牧師

こうそう
後奏

アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讃美歌委員会)

ほうこく
報告

(4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物 (献金)」は、受付にある献金箱にお献げください。

招きの詞 詩編 136 編 1-4 節 (聖書協会共同訳)

- ¹ 主に感謝せよ。まことに主は恵み深い。
慈しみはとこしえに。
² 神々の中の神に感謝せよ。 慈しみはとこしえに。
³ 主の中の主に感謝せよ。 慈しみはとこしえに。
⁴ ただひとり大いなる奇しき業^{わざ}を行う方に。
慈しみはとこしえに。

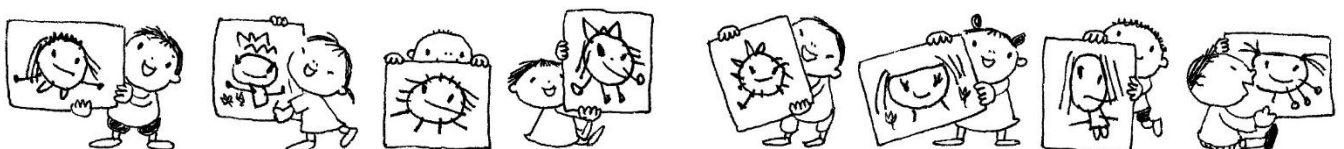
聖書 コリントの信徒への手紙 I 12 章 3-13 節 (聖書協会共同訳)

³ そこで、あなたがたに言っておきます。神の霊によって語る人は、誰も「イエスは呪われよ」とは言わず、また、聖霊によらなければ、誰も「イエスは主である」と言うことはできません。

⁴ 恵みの賜物^{たまもの}にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。
⁵ 務めにはいろいろありますが、仕えるのは同じ主です。⁶ 働きにはいろいろありますが、すべての^a人の中に働いてすべてをなさるのは同じ神です。⁷ 一人一人に霊の働きが現れるのは、全体の益となるためです。⁸ ある人には、霊によって知恵の言葉、ある人には同じ霊に応じて知識の言葉が与えられ、⁹ ある人には同じ霊によって信仰、ある人にはこの唯一の霊によって癒やしの賜物、¹⁰ ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。¹¹ しかし、これらすべてのことは、同じ一つの霊の働きであって、霊は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。

¹² 体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様です。¹³ なぜなら、私たちは皆、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの霊によって一つの体となるために洗礼(バプテスマ)を受け、皆一つの霊を飲ませてもらったからです。

(脚注 a: 別訳「もの」)



《先週のメッセージより》2025年5月4日 復活節第3主日礼拝

「それでも生きる」より

牛田匡牧師

聖書 列王記 上 17章 8-24節

今回のお話は紀元前9世紀、預言者エリヤによるその日の食料にも事欠く貧しいやもめの親子の「小麦粉と油が尽きない」という物語と、その「子どもを生き返らせる」という2つの奇跡物語でした。前半の物語では、今から最後の食糧を食べて、後は死を待つのみという親子に対して、エリヤは「まず私に食べさせ、それからあなたたちが食べなさい。そうすれば粉も油も尽きることはない」と言い、その言葉に従った親子は、彼と共に命を得ました。その後、その母親の子どもが大病を患い死んでしまいます。母親はそれをあたかも彼のせいであるかのように言ってエリヤを責めますが、彼はその遺体を抱いて神に向かって懇願の叫びをあげ、その結果として子どもは生き返ったというお話です。

これらのお話を読む時、彼は預言者だったから怖いものではなく何でもできたのではなく、彼もこの親子と同じく、飢えていて他人からパンをもらえなければ生きられないような弱い存在だったことを覚えたいと思います。彼女に声をかけた時、無視されたり、断られたりしたら、彼は生きていなかったでしょう。また彼女の子どもの死んでしまい、彼女からも文句を言われた時も、「私のせいじゃない」と言い返したり、またその家を出て行きたいとも思ったりもしたことでしょう。匙を投げることも、諦めることも、無視することもできた。にも拘わらず、彼は彼女や神と向き合うことを選び、その結果、子どもは生き返ったと伝えられています。

これらのお話から私たちが受け取るのは、たとえ先行きの見えない、絶望としか思えないような中であっても、孤独に留まらずに、他人と神と関わり続け、それでも生きるということ。たとえ文句や嘆き、言葉にならない呻きであっても、コミュニケーションを続ける中で、新しい気づきが与えられることがある。新しい目覚めがある、新しく生き直せることがあり得る、ということではないかと思います。神は人間を一人で生きる者としては作られませんでした（創世記2:18）。私たちは今日も神様から命を与えられて生かされている者として、たとえ困難や絶望の中にあっても、神と共にありながら、また周りの人たちとも共にあって、それでも生かされて参ります。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 2025 年 5 月 4 日

礼拝出席 大人 5 人 献金 大人 3,200 円
中継視聴者数 12 回 感謝

◎次週 2025 年 5 月 18 日（日）復活節第 5 主日礼拝

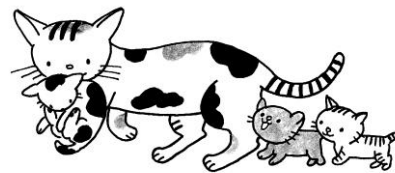
招きの詞 詩編 98 編 2-3 節

聖書 ヨハネによる福音書 14 章 1-11 節

メッセージ 「私たちの帰る家」牛田匡牧師

賛美歌 21-208 番 (©教団)、21-466 番 (©P.D.)、21-463 番 (©P.D.)

礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行って、いこい食堂にお届けする予定です。どなたでもどうぞご参加下さい。



◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分を YouTube でご覧いただくことも可能です。
- ・6月7日（土）に、和歌山県かつらぎ町にて、「縁農」を行います。釜ヶ崎・いこい食堂の方々と一緒に、玉ねぎの収穫作業をお手伝いします。詳しくは牧師までお問い合わせ下さい。
- ・本日 15 時～17 時に、東梅田教会にて大阪関西万博に関する「連続講演会」が開催されます。講師は、増田斎さんです。参加費は無料、事前申込も不要です。どなたでもご参加ください。
- ・明日 5 月 12 日（月）13 時半～15 時半にかけて在日韓国基督教会館にて「部落問題にとりくむキリスト教連帯会議」総会記念講演会が開催されます。講演は「韓国ドラマを通して差別について考える」（講師：高吉見さん）です。参加費は無料で、事前の申込も不要です。会場での対面参加の他、オンライン参加も可能です。ZOOM ミーティング ID 883 8011 929 パスコード 290990 を直接入力してご参加ください。

◎次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
5/18	牛田匡牧師	おにぎり支援
5/25	牛田匡牧師	誕生者祝福式
6/1	牛田匡牧師	ユウカリスト・教会を考える会
6/8	牛田匡牧師	ペンテコステ礼拝 (花の日こどもの日礼拝)

大阪教区社会委員会 連続講演会

70 年万博の全容

第1回 なぜキリスト教界は

万博に **参加** したのか

3/30(日)

15:00～17:00

5/11(日)
15:00～17:00

第2回 なぜキリスト教界は

万博に **反対** したのか

講師：増田 斎さん

国際日本文化研究センター博士研究員・明治学院大学キリスト教研究所協力研究員
主な著作「1970年キリスト教界における戦後主体性論争——大阪万博キリスト教界と万博反対運動」
(佐野真由子編著「万博学——万国博覧会という、世界を把握する方法」恵文閣出版、2020年)

会場：東梅田教会

間もなく大阪・関西万博2025が開かれようとしています。70年万博は、日本のキリスト教界に強烈な問いを投げかけました。キリスト者が社会と関わるとはどういうことなのか…。異なる立場が生じ、各々が信仰の問題として向き合いました。あの時代、キリスト教界ではどのような事が起こっていたのか。今回、キリスト教界を巡る議論について歴史的に研究されてこられた増田斎さんをお招きし連続講演会を行います。50年前の万博と重ねて、今、私たちの立ち位置を見つめ直す、学びの時にしていきましょう。

主催 大阪教区社会委員会

問い合わせ：uccj.osaka.shakai@gmail.com

2025 年度 部 キ 連

(部落問題に取り組むキリスト教連帯会議)

「韓国ドラマを通して
差別について考える
～韓流 20 年 ブームを振り返りながら～」

講 師：高吉 美さん

(兵庫県済済連帯協議会事務局)

【概要】

「韓流ブーム」は 2004 年、地上波で「冬のソナタ」が放映されたのをきっかけに始まったといわれています。あれから 20 年。韓流コンテンツは世界的な人気を得、韓国はより身近な国となりました。韓国のドラマは、歴史的な事件や社会問題を、真っ向から描きます。ときに目をそむけたくなくなるような差別的な表現を通して、何を訴えかけているのか。そこから何を学ぶのか、ともに考えます。

【プロフィール】

高 吉 美 (こう・きるみ)

在日コリアン3世。

兵庫県済済連帯協議会事務局に勤務。兵庫県内の 85 個の部落をとりまわし、人権に関する情報提供や、福祉研修の企画運営を担当する。

元一級社団法人ひまわりこども福祉財団・人権研究所事務局長/国語高読書会会員/

韓国翰林大学『地味日報』刊行企画編集員

日 程：2025 年 5 月 12 日(月)

13:30～15:30

場 所：在日韓国基督教会館

(KCC 会館)ホール

参 加 無 料

大阪市生野区中川西 2-6-10 (公共交通機関をご利用下さい)

およびオンライン配信

ミーティング ID: 833 8011 929 パスコード: 290990

申込はありません。当日会場にお越し下さるか

Zoom ミーティングにアクセスして下さい。

会場へ直接の
問い合わせは
ご遠慮下さい

お問合せ：部キ連議長 奥村貴充 (日本聖公会)

Tel: 0739-34-3006 fax: 0739-34-3007 Mail: mcdm7@gmail.com